



# AJP PRESS

ASIA JOINT-DEGREE PROJECT

2013.WINTER

Vol.06



報告を行う陳陳准教授

2013年8月26日(月)、東北大学文科系総合研究棟11階大会議室にて、陳陳准教授(南京師範大学・心理学院)による第8回国際セミナー

## 第8回国際セミナーを開催

「The Impact of Perceived Parenting on Chinese Adolescents' Achievement Motivation and Academic Achievement」が行われました。

セミナーでは、養育が子どもの学力(academic achievement)や達成動機(achievement motivation)の向上に対してどれほどの影響力を有するかについて明らかにした研究報告がなされました。陳陳准教授には、そうした課題を解明するために行った、様々な年代の中国人生徒を対象とした質問紙調査および聞き取り調査を通じて得られた大変興味深い分析結果をご報告して頂きました。

近年国際学力調査の結果等が注目され、子どもの学力向上に対して大きな関心が寄せら

れるなか、それに養育が与える影響について中国で行われた調査に基づき明らかにした研究報告は、大変貴重です。そのため、同セミナーでは専門分野を問わず多くの教員や学生が参加し多様な観点から活発な議論を行うことができました。また、特に学生にとっては、現在まさに最前線で活躍する海外の研究者が行っている研究内容に触れることで、自らの研究に対する士気も向上したようです。

今後もこうしたセミナーを定期的に開催することで、国境や専門分野を越えた研究者および学生同士の意見交換を行う機会を設け、継続的な交流を実現して参ります。

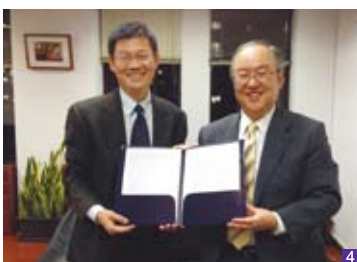
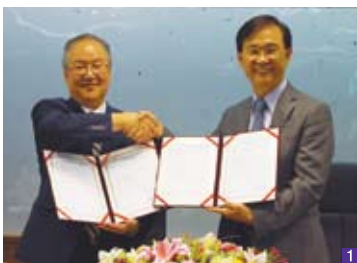
## 連携大学との学術交流協定書および学生交流に関する覚書を締結

東北大学大学院教育学研究科の本郷一夫研究科長は、2013年11月15日(金)から18日(月)に国立台湾師範大学教育学院および国立政治大学教育学院を、11月26日(火)から30日(土)に南京師範大学教育科学学院・心理学院および華東師範大学教育科学学院・心理与認知科学学院を訪問し、本研究科と各学院間で学術交流協定書および学生交流に

関する覚書を締結しました。

これまで、私どもはアジア共同学位の開発を目指し、様々な取り組みを行ってきました。今後、それらを踏まえて実際にプロジェクトを始動させるとき、プロジェクトへの参加学生が国境を越えて円滑な移動を行うことは極めて重要となります。このたび締結いたしました協

定は、そうした学生の円滑な移動を制度的に支えることを可能とするものです。本プロジェクトを通じて、異国の学生同士がともに学び、知識のみならずコミュニケーション能力や異文化への理解といった多様なスキルを修得することで、幅広い視野を備えた教育指導者を養成できるよう今後も努めて参ります。



- 1 国立政治大学教育学院での覚書締結
- 2 華東師範大学心理与認知科学学院との協定書、覚書締結
- 3 華東師範大学教育科学学院との協定書、覚書締結
- 4 国立台湾師範大学教育学院との覚書締結
- 5 南京師範大学心理学院との協定書、覚書締結
- 6 南京師範大学教育科学学院との覚書締結



# サマーコース2013を開催



め、講義には各国・地域における教育的課題に関する最新情報も盛り込まれました。そうした講義内容は履修学生のみならず、授業を担当する教員同士にとっても新鮮であり、教育的課題における各国・地域での共通点や国・地域による独自性に関して議論が深まりました。



東北大学大学院教育学研究科アジア共同学位開発プロジェクトでは、2013年8月21日(水)から28日(水)まで、サマーコース2013を開催しました。同コースは、韓国、中国、台湾における提携大学との共同学位創設のための基礎として位置づいており、各大学の学生が本研究科において教授言語を英語とする授業を履修するものです。今年度は昨年度に引き続き、2度目の実施となりました。

サマーコース2013への参加学生は、北京師範大学(中国)より2名、南京師範大学(中国)より3名、国立台湾師範大学(台湾)より1名、国立政治大学(台湾)より2名、そして東北大学より4名でした。また、教員については、南京師範大学より1名、国立政治大学より1名、高麗大学(韓国)より2名、東北大学より5名が授業を担当し、学生のみならず教員間の交流も図られました。

コース初日である8月21日の午前には開講式とオリエンテーションを行いました。開講式では、本郷一夫研究科長による歓迎の挨拶、小川佳万ディレクターによる開催の挨拶がなされ、その後、サマーコースへ参加する教員および学生による自己紹介が行われました。また、オリエンテーションでは谷口和也サブディレクターより東北大学の紹介や、学生がサマーコース開催中に日本で生活する際の留意点について説明が行われました。

その後、8月21日午後から24日までは「アジアの子ども」を、8月26日から28日までは「アジアの学校」を授業科目として開講しました。これらの科目は、ともにアジアにおける教育的課題をトピックとして扱うものですが、特に前者は心理学的観点に、後者は教育学的観点にたったアプローチによって講義内容が構成されました。また、これらの科目は本研究科の教員に加えて韓国、中国、台湾の提携大学における教員も担当したた



また、本コースは、そうした講義に加えてフィールドワークを取り入れています。具体的には、「アジアの子ども」では、仙台市ひきこもり地域支援センターである「ほわっと・わたげ」及び仙台市児童相談所を訪問し、ひきこもり、虐待、育児放棄等、子どもに関する様々な問題に対して実際に用いる解決法について現場スタッフから説明を受けました。一方、「アジアの学校」では仙台市内の高校を訪問し、授業や部活動の様子等を観察し、日本における高校生生活について理解を深めました。このように日本の教育現場を実際に訪れ、その実態を観察する機会は多くの参加学生にとって非常に貴重な経験となったようで大変好評でした。

さらに、「アジアの子ども」及び「アジアの学校」の履修を通じて修得した内容をグループごとに発表する時間を各科目の最終講義内に設け、それに向けたグループワークの時間も確保されました。学生は、グループとして習得内容を総括するために多くの議論を重ねました。また、グループ発表の際には、各グループの発表をもとに全体討論も行いました。

サマーコース最終日である28日には、閉講式及び懇親会を行いました。閉講式では、本郷研究科長から参加学生にサマーコース2013受講証明書が授与されました。また、懇親会にはコース参加者全員が参加し親睦を深めました。コース期間中、時間を共有してともに学んだ学生たちはすでに打ち解けており、人的ネットワークが構築されたようでした。

今年度のサマーコースは2度目の開催ということもあり、比較的円滑に運営することができました。2014年度よりアジア共同学位開発プロジェクトは本格始動し、東北大学に加えて台湾師範大学、国立政治大学、南京師範大学、高麗大学といった連携大学においても授業科目を開講していく予定です。そして、参加学生はそうした連携大学間を移動しながら科目を履修します。今後、サマーコース2013で得た経験を最大限に生かしつつ、アジア共同学位開発プロジェクト全体も成功させるよう邁進して参ります。



## Summer Course 2013 Timetable

21-Aug	10:00~	Opening Ceremony		Conference Room		
	10:00~10:05	Welcoming Remark by the Dean of Graduate School of Education				
	10:05~10:10	Opening Remark by the Director of Asia Joint-Degree Project				
	10:10~11:10	Orientation (TANIGUCHI, Kazuya)				
	11:10~12:00	Guided Tour of Graduate School of Education				
	12:00~13:00	Lunch				
<b>Children and youths in Asia</b>						
21-Aug	13:00~14:30	UENO, Takashi	Tohoku Univ.	Mental Health	#306	
	14:40~16:10	KATO, Michiyo	Tohoku Univ.	Psychological Problems and Support System : In Case of Students in Japan	#306	
	16:10~16:50	Procedure: Travel Expenses		#306		
	16:50~17:50	AMBO, Hideo	Tohoku Univ.	Students' Group Work to Prepare for the Presentation	#306	
22-Aug	08:50~10:20	AMBO, Hideo	Tohoku Univ.	Actual State of Japanese NEET	#306	
	10:30~13:00			Observation of Support Center for NEET "WATAGE"	WATAGE	
	13:00~16:20			Observation of Sendai Child Consultation Center	Sendai Child Consultation Center	
	16:30~17:50			Students' Group Work to Prepare for the Presentation	#306	
23-Aug	08:50~10:20	LEE, Sangmin	Korea Univ.	Psychological Issues of Korean Students	#306	
	10:30~12:00			School Counseling Approach in South Korea		
	13:00~14:30	CHEN, Chen	Nanjing Normal Univ.	Intergroup attitudes of migrant children in China : The Association with Parenting and Peer Relationship	#306	
	14:40~16:10			Mental Health of Chinese Adolescents: A Social Change Perspective		
	16:20~17:50	AMBO, Hideo	Tohoku Univ.	Students' Group Work to Prepare for the Presentation	#306	
24-Aug	08:50~10:20	AMBO, Hideo	Tohoku Univ.	Students' Group Work to Prepare for the Presentation	#306	
	10:30~12:00			Presentation and Questionnaire		
25-Aug	<b>Free Day</b>					
<b>Schools in Asia</b>						
26-Aug	08:50~10:20	TANIGUCHI, Kazuya	Tohoku Univ.	Schools in Japan 1	#306	
	10:30~12:00			Schools in Japan 2		
	13:00~14:30			High School Visit		Jonan High School
	14:40~16:10					
	16:20~17:50					
	18:00~19:30	Students' Group Work to Prepare for the Presentation	#306			
27-Aug	08:50~10:20	PARK, Inwoo	Korea Univ.	Schools in Korea 1	#306	
	10:30~12:00			Schools in Korea 2		
	13:00~14:30	CHOU, Chuing Prudence	National Chengchi Univ.	Schools in China 1	#306	
	14:40~16:10			Schools in China 2		
	16:20~17:50	TANIGUCHI, Kazuya	Tohoku Univ.	Students' Group Work to Prepare for the Presentation	#306	
28-Aug	08:50~10:20	OGAWA, Yoshikazu	Tohoku Univ.	Asian Schools : Comparative perspective 1	#306	
	10:30~12:00			Asian Schools : Comparative perspective 2		
	13:00~16:00	TANIGUCHI, Kazuya	Tohoku Univ.	Presentation	#306	
		16:00~16:20	Questionnaire		#306	
28-Aug	16:30~	Closing Ceremony		Conference Room		
	16:30~16:40	Closing Remark by the Dean of Graduate School of Education				
	16:40~17:00	Confer the Certificate				
	17:30~19:30	Party			Kitchn Terrace Couleur	



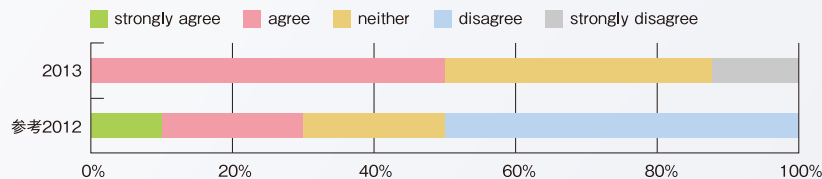


## サマーコース2013 参加学生アンケートの結果

東北大学大学院教育学研究科アジア共同学位開発プロジェクトでは、サマーコース2013参加学生を対象としたアンケートを実施しました。アンケートは、5件法による段階評定及び自由記述によって構成されています。この結果を今後活かすことで、学生のニーズにも対応した質の高いプログラムの運営を目指しています。

アンケート全体を通して、サマーコースのスケジュールに関する項目、施設および学校訪問の意義に関する項目への回答について特徴がみられました。以下ではそれらを中心に紹介します。

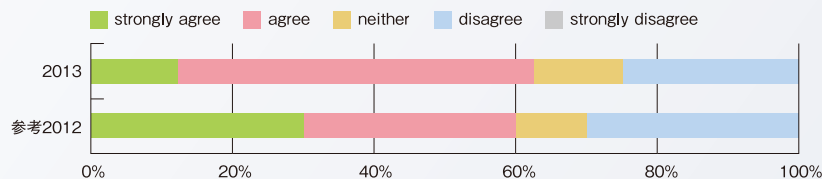
### ◆ 講義時間数 (1日当たり450分)は 適当である。



### ◆ 1日当たりの適当な 講義時間数は何分 だと考えますか？

300分/2名 336分/1名  
400分/2名 無記入/3名

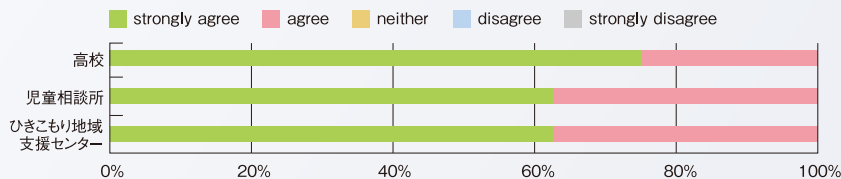
### ◆ サマーコースの 開催期間(8日間)は 適当である。



### ◆ サマーコースの適当な 開催期間は何日間ですか？

10日間/2名  
14-15日間/1名  
15日間/1名

### ◆ 施設および 学校訪問は 有意義であった。



こうした結果から、参加学生は、サマーコース全体を通してスケジュールが過密であったと感じているようです。この点を踏まえ、今後は日程にゆとりを持たせ、講義のみならず異文化体験等も取り入れながらスケジュールを調整する必要があります。特に評価が高かったフィールドワーク(施設や学校への訪問)を講義と連動させ、全体スケジュールにバランス

よく位置づけていくかがポイントのようです。

これらのアンケート結果も踏まえながら、より魅力のあるプログラムの創設を目指して取り組んで参ります。



**AJP ASIA  
JOINT-DEGREE  
PROJECT**

[www.sed.tohoku.ac.jp/~ajp/](http://www.sed.tohoku.ac.jp/~ajp/)

東北大学 大学院教育学研究科 アジア共同学位開発プロジェクト事務局  
TEL:022-795-3756 E-mail:ajp@sed.tohoku.ac.jp